

●クローバーグループ連携事業『俳句』：ちやまを詠む：

第十四回 令和五年度 秋冬（九月～二月）の部 入賞作品

テーマ 『勝山の四季折々』を詠む

選者 勝山市俳句協会 会長 石畝 千恵子
勝山市俳句協会 副会長 はばた みち恵

特選 冬ごもり竜が住みつく勝山城 福井県吉田郡 江守久美子

選評 恐竜の町勝山と勝山城をうまく配置しました。冬には大きな城に大きな恐竜がすみつきます。冬眠ですね。派手に動いたりしません。季語「冬ごもり」が適切です。とても上手にアピールしてくださいました。

特選 平泉寺ひかりとこけのミュージアム 福井県勝山市 平林茂篤

選評 「こけ」は夏の感じがしますが、通年の季語としました。白山神社だけでなく平泉寺全体が巨杉で覆われそこに陽光、月光、雪光が射しこみます。そうです、ここはひかりとこけのファンタジーです。水分豊富なところが体に良さそうです。精神的にも濁りがなくなりました。

特選 恐竜も苔も越前秋の風 東京都府中市 大場仁史

選評 福井の名所をピシヤリと表現して下さいました。恐竜も苔も冬に向かって静かにしています。秋の風がさわやかで気持ちいい、越前としたところを良くいたします。

入選 遠山の雲が浮かびながら日が城に沈んでくるな 京都府京都市 朱 效杰

入選 きょうりゆうがだいぶつさまとにらめっこ 福井県勝山市 あさいりつき

入選 初夢で勝山城の龍にのり 愛知県小牧市 長谷部 葉子

入選 織り物をおってみるたび虹がみえる 石川県金沢市 永村 美緒

入選 苔の道澄んだ空気が冬知らせ 大阪府大阪市 清水 理恵

入選 空高し白山神社のふもとまで 京都府京都市 加藤 信子

入選 は順不同